

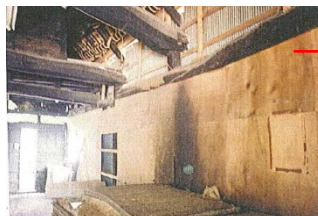


古民家正面

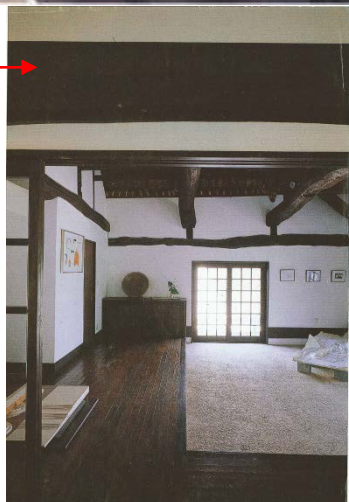
このリビング兼用のアトリは、改修前は床の間にあったものをフローリング後の床間にした。移り中の仕事はともかくどる。



デザインルーム



改修前の状態



【古民家との出会い】

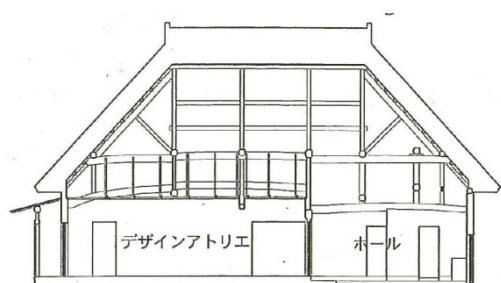
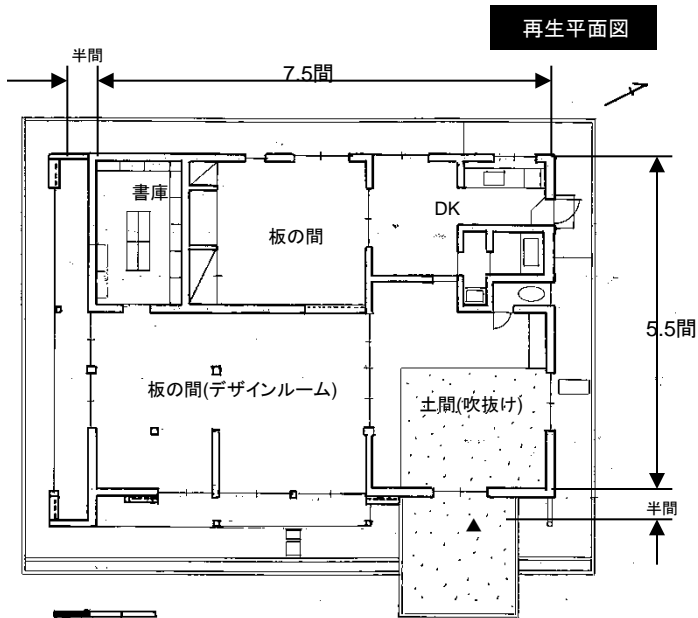
1989年の秋、それは印旛村の住み手のない荒れた農家でした。当時は、古民家は顧みることなく壊され、工業化住宅の市場が全国的に展開されていました。そのような住宅産業の住まいづくりに違和感があり、デザインの力を吹き込み甦らせました。数年後、兵庫県建築家やデザイナーの数人の仲間たちが1987年頃から古民家再生を積極的に進めていることを知りました。

この民家は、多くの点から創建年代が不明ですが、江戸末期や明治期ではなく、さらにさかのぼるものと推察していますが、棟札や墨書もありません。

再生は、旧に戻すと言った復原手法ではなく、現在進行形の生活が伝統の技と美に包まれる空間としてデザインしました。

主な仕様／壁：漆喰左官仕上げ（一部外壁吹きつけ仕上げ）、床：ナラ材縁甲板張り、土間床：寒水石洗い出し、屋根：草葺きの上に金属屋根（既存に塗装）、建具：木製一部サッシなど。

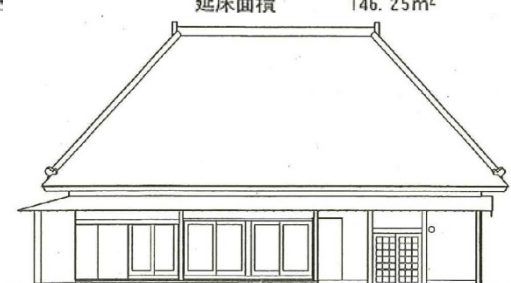
構造・規模	古民家改修／木造、地上1階
敷地面積	1397.16m <sup>2</sup>
建築面積	154.88m <sup>2</sup>
延床面積	146.25m <sup>2</sup>



桁行断面



梁間断面



東立面